

その102 今回の記事は1995年のオセアニアの3回目です 1995年(6)  
「あの人は今(第27回)」JA1PIG 臼井五郎氏

JA3AER 荒川泰蔵

■今回の記事は1995年のオセアニアの3回目です

今回は1995年の第6回目で、オセアニアの3回目(CQゾーン30)です。この年はオセアニアでの運用が多く3回に別けさせて頂きましたが、今回は最後で次回からは1996年の記事になります。尚、今月の「あの人は今(第27回)」は、JA1PIG 臼井五郎氏の紹介です。

■1995年(フィジー 3D2XC)

JE1DXC 三原正義氏は、3D2XCの免許を得て、フィジーで運用したとアンケートを寄せてくれた(写真1)。「免許の申請先は Ministry of Information, Broadcasting, Television and Telecommunications, P. O. Box 2225, Government Buildings, Suba, Fiji であるが、JARL 国際課より入手した申請書、日本の免許証と免許状の英文証明、パスポートのコピー、パスポートサイズの写真2枚、申請料(ライセンスとポリスクライアンス合わせて)42.50フィジードルを送り、約2週間で入手。コール3D2XCは希望を出してもらえた。フィジーの免許は150Wまでで、リニアアンプの使用は基本的に無理。近々コンウエイリーフからQRVがあるらしいが、リニアアンプを使うとのこと。特別免許だろうか? 運用場所はSeashell Cove Resortであったが、無線には支配人のスミス氏が理解していて、問題なし。過去たくさんの運用実績がある。JA向けには良好なロケーションであった。1995年の1月から2月にかけて延べ6日間、7-28MHz, CW, SSB, RTTY, FMの運用で約2,000QSOであった。3D2から運用していると、QTHはどこかと頻りに聞かれて困った。(1995年2月記)」そしてその後、再度の運用をレポートしてくれた。「2回目の運用は、5月26日から29日にママヌザ諸島からQRV。ナンディーから船または小型飛行機で行く。どこも宿代が高かった、1万円以上は取られる。ここのIOTA参照番号(OC-121)はフィジー本土(OC-016)とは異なる。3.5-28MHz, CW, SSB, RTTYで運用、WPX CWコンテストにも参加し、約1,000QSOであった。(1995年7月記)」

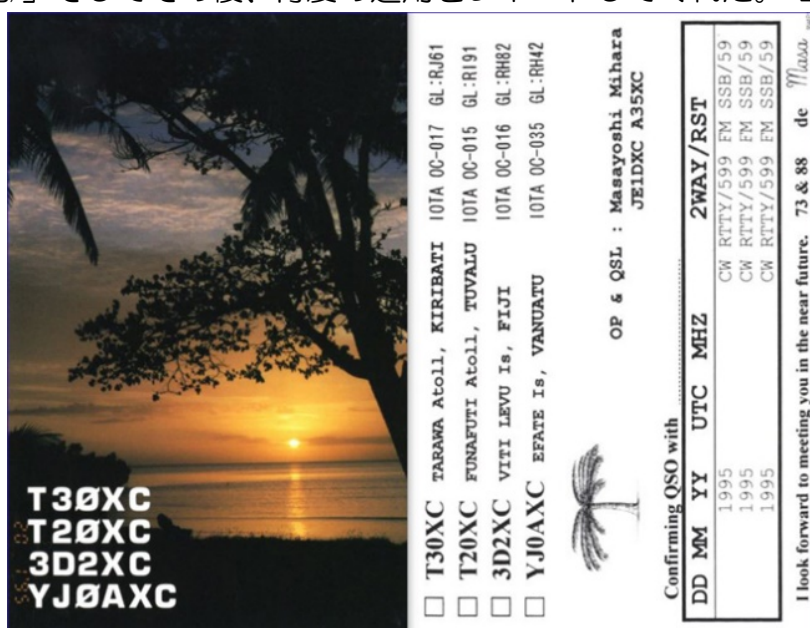


写真1. 3D2XC 三原正義氏のQSLカード表と裏。

## ■1995年 (ウォリス・フツナ諸島 FW/JA1WPX)

JA1WPX 下市忠雄氏は、ウォリス・フツナ諸島でFW/JA1WPXの免許を得て、5月2日から5日までウォリス島から運用したと、アンケートを寄せてくれた(写真2及び3)。「多分、原則的にライセンスは出頭しないと貰えない。FKやFO等と同じで、FWでのみ有効である。USAのレシプロとは違う。ワリス(ウォリスでは通じない)にはフライトが遅れて4月29日に着いたが、5月1日が国民祝日になり、ライセンス貰えず。5月2日の早朝出頭して貰った。ディレクターが不在のため、とりあえず口頭でOKをとり、3時間後に再び訪れて、正式ライセンスに自分のサインをして、コピーが保管され、オリジナルが手渡された。以前訪れた人の話では1ヶ月で2,000CFPとのことであったが、私の場合は滞在期間のみ有効でUS\$2でOKであった。これは2ヶ月前、郵送申請した際、連絡費として同封したもので、2,000CFP支払うと言ったら、これでOKとのことでしたので、2,000CFP(約\$20)支払うと1ヶ月のライセンスが発行されたかも知れません。FWでは英語は95%以上通じません。私はエアーカレドニアで、代理店を通じて往復フライト+8泊昼食付+現地での送迎をパックにしてもらい、先払いにした。ニューカレドニア、またはフィジー経由のいずれかになる。タヒチ経由でも可能である。宿泊先はここ数年日本のハムが泊まった実績のあるHOTEL LOMIPEAUであり、テレコムへは歩いて7分位で行ける。島にはタクシーはない。夕食はホテルの定食(約2,500CFP)、昼はスーパーで購入したスナックとビールで済ませた。10~15分歩いてビーチ浴いにはレストランやバー等もあるが、英語のメニューは無いので、フランス語の判る人は色々とお食もできる。ワリス人はポリネシア系の人で、99%の人は宗教心の強い良い人々です。フランス系の白人も結構おり、テレコムのトップクラスは皆白人でした。ホテルの庭にアンテナを建てるのを許可してくれたが立木が多く、しかも枝があるので、ワイヤーアンテナは非常に張りづらかった。当初FD-4ウィンドムを11m高にする予定であったが、給電点が8m位になってしまった。- 中略 - HF, CWは7MHzで私の730局を含み約2,400局。SSBでも約970局、一番力を入れたオスカーで約220局(正味153局)できたのは、FWの要求度が比較的高い事の証明と思われる。- 後略 - (1995年6月記)」



写真2. FW/JA1WPX 下市忠雄氏の QSL カードの表と裏。

(LICENCE D'EXPLOITATION)

d'une station radioélectrique d'amateur

Ce document certifie que le porteur est titulaire d'une licence l'autorisant à posséder et utiliser une station d'amateur dans certains pays en se conformant à la réglementation en vigueur dans ces pays (licence délivrée en application de la recommandation T/R 61-01 de la CEPT).

TITULAIRE : SHIMOTCHI Tadao

N° LICENCE : Kan a 136978

INDICATIF PERMANENT : JA1WPX

INDICATIF PROVISoire : FW/ JA1WPX

CLASSE : 1

VALABLE JUSQU'À : 6 Mai 1995

N B : La classe 1 (groupes D et E français) permet l'utilisation de toutes les fréquences attribuées au service amateur qui sont autorisées, dans le pays où la station doit être exploitée.

La classe 2 (groupes A, B et C français) limite l'utilisation des stations aux attributions de fréquences supérieures à 144 MHz qui sont autorisées pour le service amateur dans le pays où la station doit être installée.

CONDITIONS D'INSTALLATION :

1 - Le titulaire doit présenter la licence radio-amateur (CEPT ou autre) à toute demande des autorités de contrôle du pays visité.

2 - L'autorisation n'est accordée que pour l'utilisation d'une station portative ou mobile. Une station portative devra, dans le contexte de cette recommandation CEPT, comprendre toute station fonctionnant sur le réseau électrique à un emplacement provisoire, par exemple un hôtel.

3 - L'autorisation est accordée aussi pour l'utilisation de la station d'un radioamateur titulaire d'une licence dans le pays d'accueil.

4 - Le titulaire doit respecter les dispositions du règlement des radiocommunications de la recommandation CEPT T/R 61-01 et de la réglementation en vigueur dans le pays visité, de plus il doit observer toute limitation qui lui est imposée en ce qui concerne les conditions locales de nature technique ou relatives aux pouvoirs publics.

写真 3. FW/JA1WPX 下市忠雄氏の免許状。

## ■1995年 (西サモア 5W0XC)

JE1DXC 三原正義氏は、5W0XC の免許を得て、西サモアで運用したとアンケートを寄せてくれた。「免許申請先は Post and Telecommunications Department, Government of Western Samoa. 首都のアピアにある郵便局の2階にテレコムオフィスがあり、そこを訪ねた。日本の免許状の英文証明を見せて希望のコールを言うと、その場で免許を発行してくれた。申請料は 15 サモアドル。運用場所は Vaiala Beach Cottages. アピアの東の郊外にあり、北側はフェンスと道路を隔てて海である。女主人のヘレンは、以前 JOCV(青年海外協力隊)の日本人が滞在していたこともあり、日本人に親切のようだった。運用は 5月11日から16日迄で、HF 3.5-28MHz, CW, SSB 及び RTTY で、約 4,050 QSO であった。(1995年7月記)」

## ■1995年 (南クック諸島 ZK1DXC)

JE1DXC 三原正義氏は、ZK1DXC の免許を得て、南クック諸島で運用したとアンケートを寄せてくれた。「日本の免許証と免許状の英文証明、パスポートの写し、申請料 20NZ ドル、手紙を郵送した。首都のアヴルアの町中にあるテレコムオフィスを訪ねると、ZK1TK(カマナ氏)が既に免許を持って待っていた。彼は日本に 7 週間滞在したこともあり、親日家で色々と話がはずんだ。運用場所は Club RARO(旧 Tamure Resort)で、支配人のピーターは無線に理解があり、宿の裏庭にアンテナを立てられた。北側が海で良好なロケーション。南には山がある。日本で半年働いたことのある親日家の女性がレセプションにいた。物価が高かった。HF 3.5-28MHz, CW, SSB, RTTY で運用し、4,100QSO できた。(1995年7月記)」



■1995年 (仏領ポリネシア FOOSAA)

JA7KAC 佐々木公咲氏は、FOOSAA の免許を得て、仏領ポリネシア(タヒチ)の Bora Bora 島から QRV したとアンケートを寄せてくれた(写真 4 及び 5)。「FO5IW より、WW WPX SSB コンテストに参加することが目的であった。プライベートの小さな島より運用した。回りが海のため、非常によく飛んだ。最大電力は 250W までしか許可されていない。事前に輸入許可書を入手しておくべきである。通関では機械のシリアルナンバー等も確認されるので要注意。(1995年7月記)」

FO5IW..... '95 WPX SSB CONTEST QSL via JA1ELY  
 FOOKUS..... QSL info. & home call Toshi, JA1ELY  
 FOOSAA..... QSL info. & home call Koh, JA7KAC/1  
 FOOTOH..... QSL info. & home call Mako, JA1OEW

DCCC:French Polynesia IOTA:Bora Bora OC-067

TO RADIO

CONFIRMING OUR QSO on 1995

MONTH	DAY	TIME	UTC	BAND	REPORT	MODE
March			UTC	MHz	RS/T 59/9	2 x SSB CW
March			UTC	MHz	RS/T 59/9	2 x SSB CW
March			UTC	MHz	RS/T 59/9	2 x SSB CW
March			UTC	MHz	RS/T 59/9	2 x SSB CW

MAI WOANA ISLAND is a private island in the lagoon of Bora Bora. It is the home QTH of Stan FO5IW and his wife Dominique FO5IZ. The island is surrounded by a perfect blue lagoon, the white sand beach is in every direction, just beside you. Box 164, Bora Bora, French Polynesia

写真 4. FOOSAA 佐々木公咲氏の QSL カードの表と裏。

HAUT-COMMISSARIAT DE LA REPUBLIQUE  
EN POLYNESIE FRANCAISE  
B.P. 115 PAPEETE (TAHITI)  
CELLULE DES POSTES  
ET TELECOMMUNICATIONS  
-0-0-0-  
Tél. : 46 86 31 - Fax 42 27 85

REPUBLIQUE FRANCAISE  
LIBERTE-EGALITE-FRATERNITE

LICENCE TEMPORAIRE D'EXPLOITATION  
D'UNE STATION RADIOELECTRIQUE PRIVEE D'AMATEUR

Le Haut-Commissaire de la République en Polynésie Française autorise :  
**Monsieur Kosaku SASAKI JAPON**  
à établir et à utiliser dans les conditions prévues par l'arrêté 1571 O.P.T. du 29 mai 1984 1 station(s) radioélectrique(s) d'amateur décrite(s) ci-dessous :

STATION(S) FIXE(S)	STATION(S) MOBILE(S)
NOMBRE : 1	NOMBRE : 1
CARACTERISTIQUES :	CARACTERISTIQUES : ICOM 725
EMPLACEMENT :	EMPLACEMENT : c/o Stan Wisniewski BORA BORA

CLASSE A : Toutes bandes radioamateur

Le titulaire de la présente licence s'engage à respecter la réglementation d'ordre intérieur ou international intervenue ou à intervenir en matière de stations radioélectriques privées d'émission et à informer la cellule PTT du Haut Commissariat de la République de toute modification apportée dans les caractéristiques, la composition ou l'emplacement de ses stations. En outre, il devra se conformer aux conditions particulières d'exploitations indiquées ci-après :

Conditions particulières d'exploitation : La présente autorisation, valable pour trois mois au maximum à compter de la date du retrait de la licence par le titulaire, est limitée au trafic des radioamateurs dans les bandes de fréquences autorisées par le règlement des radiocommunications pour la région 3, en fonction de la classe affectée au titulaire.

INDICATIF ATTRIBUE : FOØ SAA

Date de délivrance : 21 MARS 1995 Date d'expiration : 21 JUIN 1995

Fait en double exemplaire à PAPEETE, le 20 mars 1995

Signature de l'intéressé

*Kosaku Sasaki*



写真 5. FOOSAA 佐々木公咲氏の免許状。

## 「あの人は今 (第27回)」 JA1PIG臼井五郎氏

現在も JANET クラブのネットにアクティブで、JA サイドから NC(ネットコントロール) を務めておられる JA1PIG 臼井五郎氏の、スリナムでの JA1PIG/PZ の運用については、(その 12)2014 年 3 月号に、そして、セントマーチンでの FS/NZ2Y の運用については、(その 68)2018 年 11 月号で紹介させて頂きましたが、その臼井氏から近況をお知らせ頂きましたので、ここに紹介させて頂きます(写真 6~8)。「小さいころから外国に興味を持っていた。小学生の時 NHK テレビで JA1CYA 須藤典子さんの番組を見てアマチュア無線を志し、電信級免許をとった高校生から約 60 年アマチュア無線を続けています。現在小さな会社を営んでいます。アマチュア無線と海外出張で世界を見たことが肥やしとなっています。埼玉県の高松を振り出しに、南米スリナム、2 回のニューヨーク、パナマなど 13 回の引越しをしました。社宅がほとんどでしたが、どんな場所でもアンテナを建て無線を続けました。この中で 1976 年から 5 年間の南米スリナムが仕事もアマチュア無線も最もアクティブで醍醐味を知った時期です。ちょうど太陽黒点のサイクル 21 の時だったためコンディションが大変 FB で朝から夜中まで、1 日中世界中と交信しました。PZ のハムのお陰で相互運用協定しか許可されない国で電波が出せる様になりました。YAESU FT-101 が 1 台のみの赴任でしたが、だんだんグレードアップし、最終的にアンテナ TH6DXX と、自作 4-1000 の 1kW の設備で、4 年間で 4 万局も QSO 出来ました。

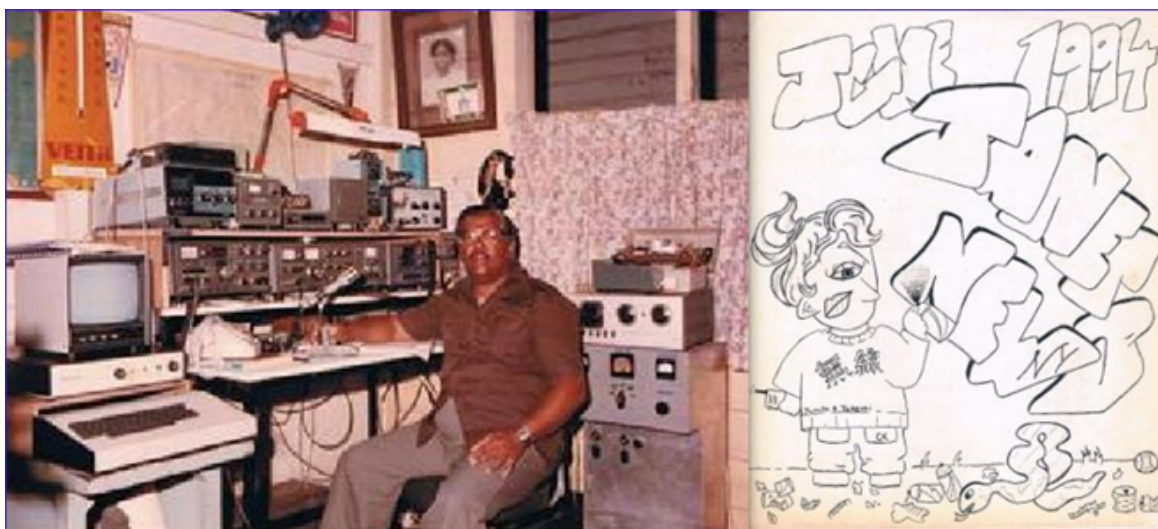


写真 6. (左)スリナムで電波を出せた恩人で仲良しだった PZ1AP, Arnie さん。(右)臼井さんのスリナム生まれの長女が描いた JANET NEWS の表紙。

スリナム駐在が終わる 1981 年頃スリナムで軍事クーデターが勃発し帰国、その頃偶然ニューヨークで産声を上げたばかりの JANET を聞き、その後思いもよらないニューヨーク駐在となり、JANET の皆さんと Eyeball や JANET のオンエアミーティングにも毎週参加できました。JANET メンバーは国連のクラブ局 4U1UN にも自由に入れる特権を得て、週末にはよく 4U1UN に集まったり、国連本部ビル近くのタイレストランで Eyeball QSO を楽しみました。





写真7. (左)国連本部ビルの屋上にビームアンテナを設置する JANET クラブのメンバー達(1988年)。

(右) 国連本部ビルの屋上にて、エンパイアステートビルやクライスラービルを背景に、左から JS1DLC 荒川謙一郎氏、JA1PIG 臼井五郎氏、N2ATF 小林巖氏。

その後アマチュア無線は JANET 中心となっています。JANET のメンバーと楽に QSO 出来る様にと、現在は横須賀観音崎の丘の上に遠隔無線機を設置して皆さんと毎週末楽しく QSO しています。N2JA から始まり現在の W6OPQ まで歴代ネットワークコントロール局は、個性的で味のある素晴らしい人達にたすきが渡され続けています。日本語が母語であることや日本語を話し外国と関係ある人達の集まりである JANET、日本語で QSO 出来ることは楽しいばかりでなく、逆境にあっても勇気がもらえます。今は太陽活動が低迷期ですが、かつての様に一度に世界の各地の JANET メンバーが聞こえる日も来るに違いありません。これからも、私のハムライフは JANET 中心でしょう。(2021年4月記)」



写真8. 横須賀観音崎の丘の上にある遠隔基地局にて JA1PIG 臼井五郎氏。